

キタムラバンボデー

取扱説明書

必ずお読み下さい。

取扱説明書は車のなかに
必ず保管して下さい



株式
会社

北村製作所

はじめに

このたびはキタムラバンポデーをお買い上げ
いただきありがとうございました。

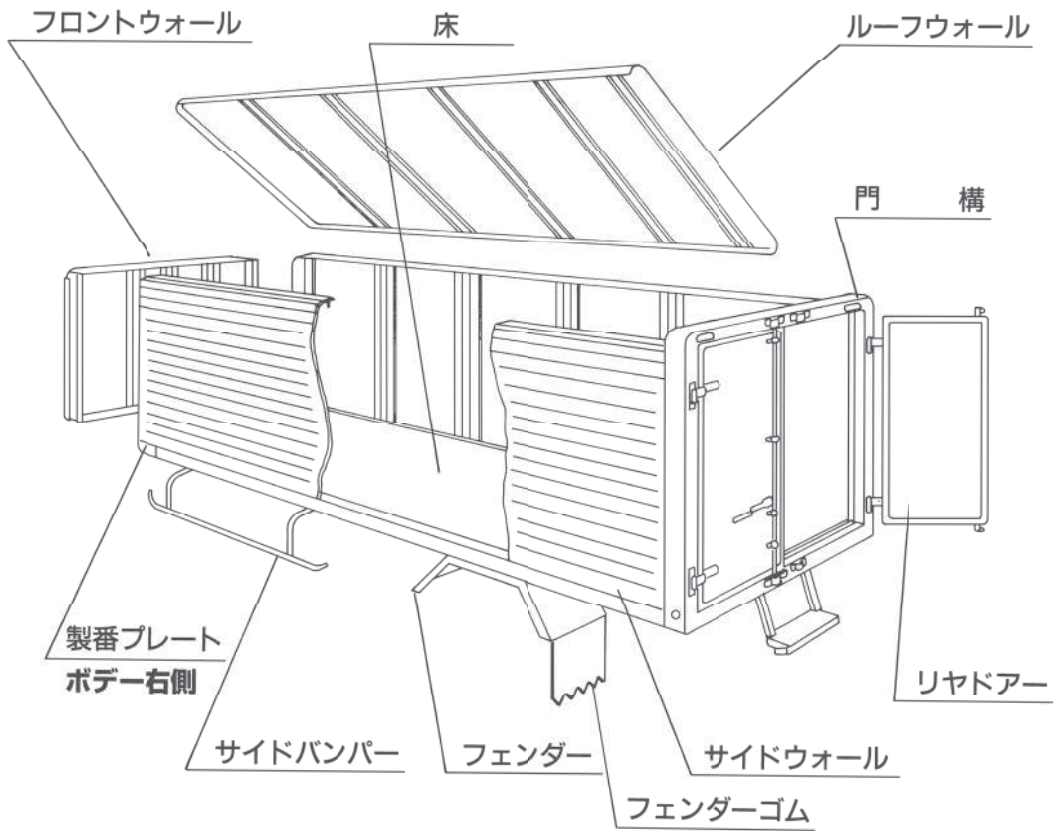
本書はキタムラバンポデーを安全・快適にお
使いいただくため各部の取扱いを説明してあ
ります。

あなたのお車が常に最良の状態ですぐれた機
能が発揮できます様本書を必ず読んで順守し
て下さい。

これらを守らないと事故につながったり、ケ
ガをしたりポデーの損傷や機能の低下につな
がるおそれがあります。

- バンポデー車に共通する“注意”していただきたいことを「ご使用にあたって」に記載してあります。
- 詳細については各部の操作手順・注意事項・保守点検をご参照下さい。

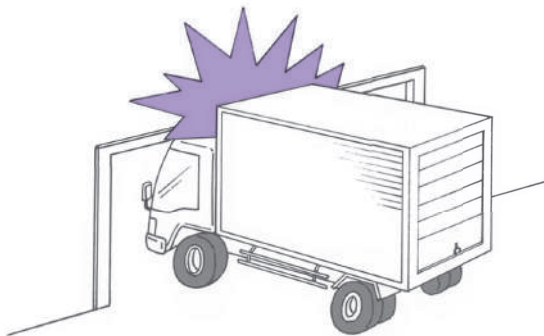
ボデー構成図(アルミバン)



目 次

1.ご使用にあたって	1
2.各種扉の取扱い方法	
2-1 後 扉	
観音扉	6
シャッタードア	7
フォールディングドア	9
はね上げ扉	11
2-2 側 扉	
片開き式・観音式	13
アウトスライドドア	15
ワンタッチスライドドア	16
引違い扉	17
3.バンボデーの保守点検	18
4.その他の注意事項	19
5.違法改造の禁止	21
6.電装品関係	
6-1 不良原因と対策	22
6-2 室内灯配線図	23
6-3 マーカーランプ及び車巾灯配線図	24
7.文字・看板・塗装について	25
8.バンボデーサービス基準	27
9.バンボデーのお手入れ	29
10.本社・営業所	30

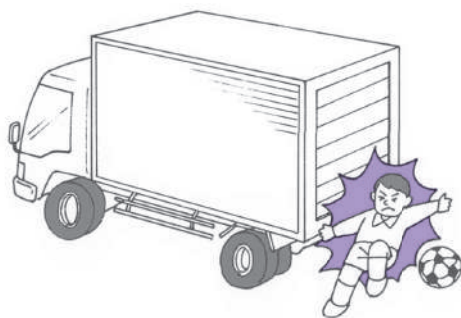
1.ご使用にあたって



- 1.全高の確認をして下さい。
自分の車の全高を覚えておいて下さい。
(全高は車検表に記載されています。)

⚠ 注意

- 駐車場・車庫・ガード・トンネル等に入る時は高さ制限に注意して下さい。キャビンよりポデーは高くなっております。
(但し4ナンバーはキャビンとほぼ同じ高さです。)



- 2.後方の確認をして下さい。

バンポデー車はルームミラーでの後方確認ができません。未確認のままの後方発進は絶対にしないで下さい。人身事故につながる危険があります。バックするときは必ず後方回りの安全を確認して下さい。

⚠ 注意

- 後方の状況は刻々変化いたします。子供が車の陰にいたり飛び出してくることがあります。バックするときは必ず後方回りの安全を直接確認又は誘導員に従って後方移動をして下さい。
- 後方確認カメラ等の装着車においても視界は限られた範囲しか確認できません。充分注意の上徐行して下さい。

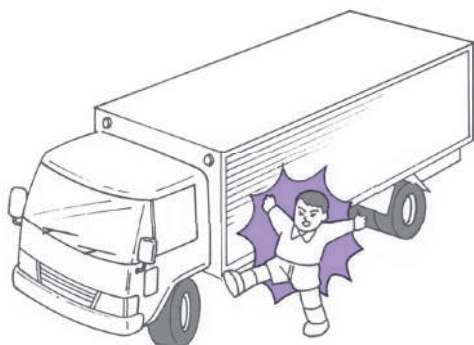


- 3.扉の確認をして下さい。

扉を確実にロックしてから走行して下さい。

⚠ 注意

- ロックしたつもりでも半掛りのことがあります。確実にロックされているか確認して下さい。
- 扉開閉確認警報（オプション）等の過信はしないで下さい。配線の故障や球切れをおこすことがあります。ロックは目視確認を励行して下さい。
- 扉を開いたままでの走行はしないで下さい。積荷の脱落や扉で人身事故等につながる危険があります。



4.車の側方を確認して下さい。

サイドバックミラーによる側方は視界が狭くなっています。

車の長さはミラーで見るより長くなっています。

⚠ 注意

- 両側方に障害物の無い事を確認してから走行して下さい。
- 特に左折時は後輪巻込防止に充分注意して下さい。

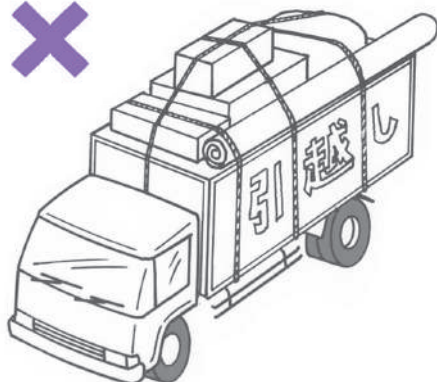
5.積雪時の対応について。

屋根上の雪は必ず落してから走行して下さい。走行中の落雪は事故につながる危険があります。



⚠ 注意

- ブレーキ時の前方落雪やカーブ時の側方落雪は衝突事故の危険があります。
- 歩行者に直接落雪の場合は**人身事故**につながります。
- 積雪のまま長時間の放置又走行はボデーの損傷をまねくことも考えられます。
- 積雪のまま走行しますと、車両重心が高くなり安定走行がむずかしくなります。事故につながる心配があります。
- 直接屋根上に登りますとすべりやすい為危険です。屋根上の雪をおろす場合は側面に作業台等設置して降ろして下さい。
- スコップ等使用時は屋根外板を損傷しないよう注意して下さい。

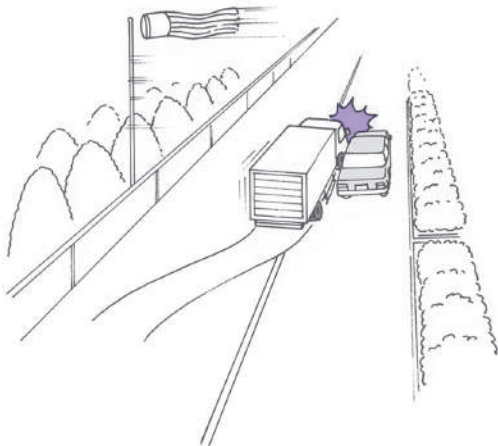


6.屋根には荷物を積まないで下さい。

バン型車の屋根上の積載は危険が伴う為に禁止されております。

⚠ 注意

- 屋根上はすべりやすく大変危険です。又、積載が可能な強度を有しておりません。ボデー損傷につながるおそれがあります。



7. 強風時の注意事項。

バンポデー車は風を大きく受けるケースが多くなり事故につながる危険があります。

⚠ 注意

- 扉開放時は風にあおられない様注意し確実に開き止めをして下さい。
- 扉を閉めるときは、開き止めを取り外し風にあおられない様注意し扉を開めて下さい。その時ロックは確実に行って下さい。
- 走行中の横風は、風を大きく受けることになりハンドル操作に充分の注意が必要です。特に高速道における風防フェンスの通過時点ではスピードを押えて走行して下さい。
- 強風時における走行はスピードをひかえ目にしカーブでは更にスピードを落して下さい。バンポデーは重心が高く風を大きく受ける為スピードの出し過ぎは横転事故につながる危険があります。



8. ボデー内の確認をして下さい。

走行前及び終業で車両から離れる時は内部を確認して下さい。

⚠ 注意

- 万一子供や作業者がいるとも考えられます。長時間離れる時はボデー内の安全を確認して下さい。

9. 安全運転のお願い。

急発進・急停止・急カーブは事故につながる危険があります。安全運転を心がけて下さい。

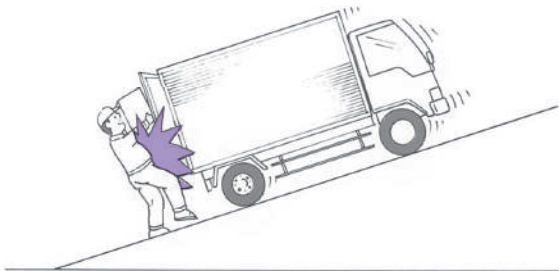


⚠ 注意

- 急発進・急停止・急カーブ等ムリな運転は荷崩れをおこし、荷物の破損やボデーの損傷を招いたり最悪の場合扉の損傷等から荷物の落下も考えられます。事故につながらないように安全運転を心がけて下さい。
- スピードの出し過ぎでの急カーブは横転事故に直結します。バンボデーは重心が高くなっていることを承知しておいて下さい。

10. 荷役作業時の路面状況を確認して下さい。

路面に傾斜の無い事を確認して下さい。坂道や傾斜の有る路面での荷役作業は積荷によっては危険が伴います。



⚠ 注意

- 傾斜の強い路面では積荷によって荷崩れを起こします。ドアの開放で荷物の落下も考えられますので充分注意の上荷役作業を行って下さい。
- 台車やカーゴ車等、特に動きやすい積荷の場合は傾斜の無いところで荷役作業を行って下さい。
- ローラーコンベア等の省力機器装着車は傾斜によって積荷が走って特に危険です。

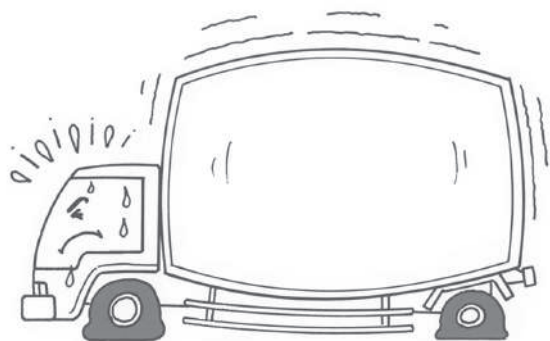
11. 積荷について

積荷はボデー床面全体で平均に積んで下さい。



⚠ 注意

- 左右方向や前後方向においての片荷は安定走行の妨げになりますので平均に積んで下さい。
- 積荷の状態が不安定なときはロープやベルト等で固定して下さい。但し必要以上の締めすぎはボデーの損傷をまねくことも考えられますので注意して下さい。荷崩れが起きた場合、扉の開放時荷物の落下等の危険が考えられます。



12.積載量を守って下さい。

車検証に記載されている積載量をオーバーしないで下さい。

⚠ 注意

- 過積載は罰則の対象となります。
- 過積載は安定走行の妨げとなり危険が伴います。場合によってはハンドル操作不安定をまねき転倒や重大事故につながることも考えられます。
- 過積載はボデーに悪影響となりボデーの損傷や短命をまねくこととなります。

13.その他

リフト装着等、特殊仕様車については別冊の取扱い説明書も合わせてお読み下さい。

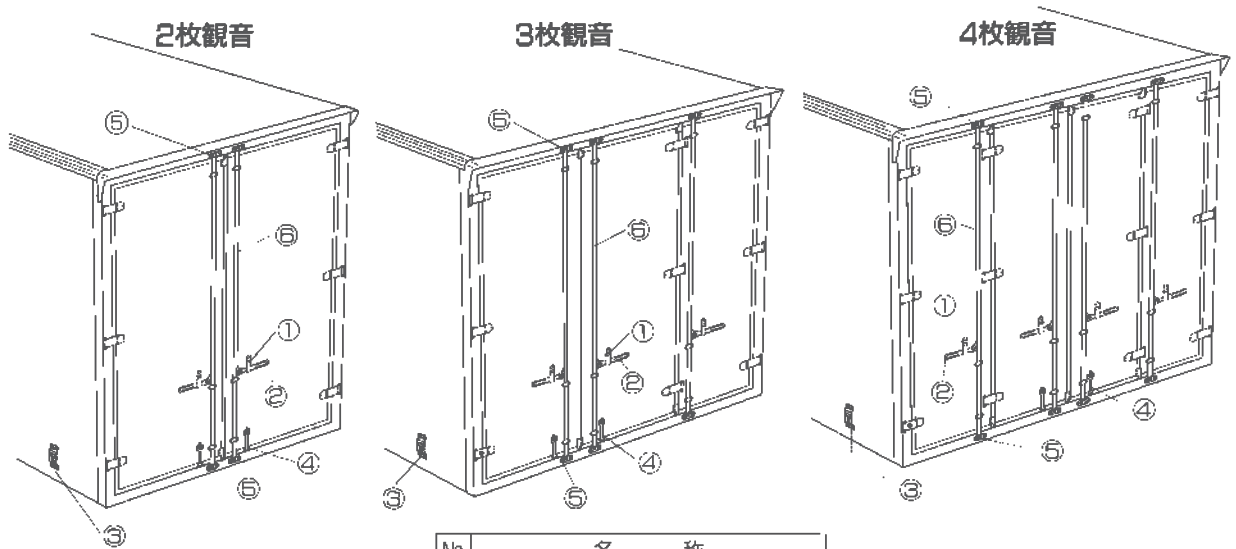
⚠ 保証の適用を除外するもの

- 納入後お客様が行う第二次架装に起因する不具合事項につきましては保証対象となりません。

2.各種扉の取扱い方法

2-1 後扉 観音扉

■各部の名称



No.	名 称
①	ハンドルロック
②	ハンドル
③	開き止め受金具
④	開き止め金具
⑤	カムラッチ
⑥	コネクターロックロッド

■操作手順及び注意事項

	操作手順	注意事項
開ける時	<ol style="list-style-type: none"> ハンドルロック①を解除する。 ハンドル②をもち上げて手前側に引き扉を少し開ける。 ハンドル②をハンドルロック①に戻して扉を回転させ開き止め金具③④を固定させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●強風時の開閉は風にあおられないように注意して下さい。 ●ハンドル②をハンドルロック①に戻さないと外板を損傷するおそれがあります。 ●開き止め金具③④は確実に固定されている事を確認して下さい。
閉める時	<ol style="list-style-type: none"> 扉開き止め金具③④を外し扉を回転させる。 コネクターロックロッド⑥の爪をカムラッチ⑤に固定させる。 ハンドル②を回しハンドルロック①を掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ●室内を必ず確認してください。(人のいないことや荷物の異常等の無い事) ●コネクターロックロッド⑥の上下の爪がカムラッチ⑤に確実に入ったことを確認して下さい。 <p>右図の様にかからない状態で実行すると扉が閉まらな事故を引き起こす恐れがあります。</p>

■保守点検

- 外装の損傷、取付ビス等のゆるみが無いか確認して下さい。必要に応じて増し締めして下さい。
- ゴムパッキンに損傷等が無いか確認して下さい。パッキンの損傷は気密性の低下や本体の損傷、荷物の損傷につながります。必要に応じて交換して下さい。
- 扉の動きがスムーズに開閉するか確認して下さい。

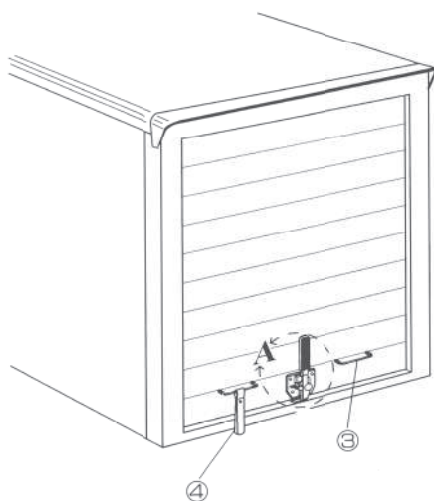
■消耗部品

扉枠ゴム(Hゴム)

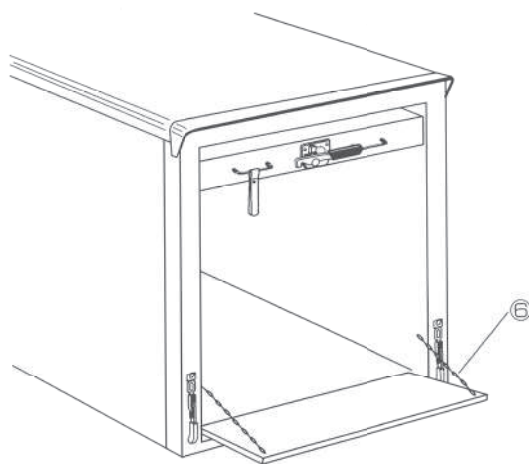
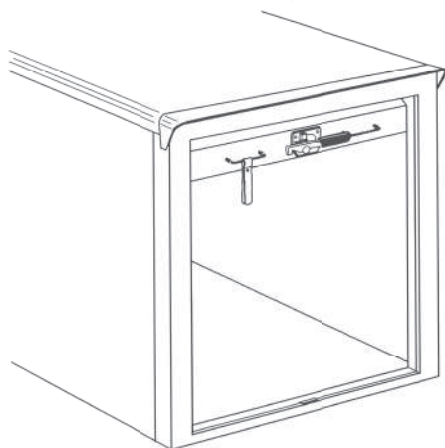
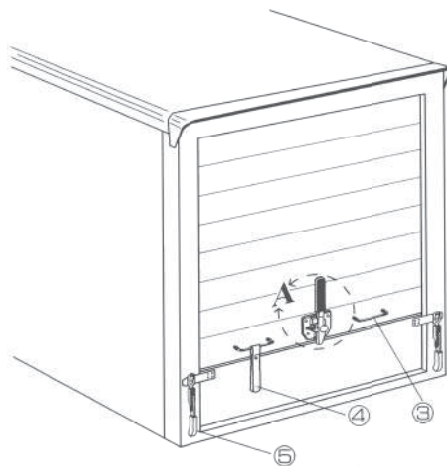
2-1 後 扉 シャッタードア

■各部の名称

フルシャッター

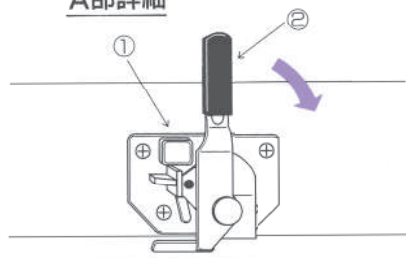


アオリ付シャッター



標準ロックハンドル式

A部詳細



No.	名 称
①	ハンドルロック
②	シャッターハンドル
③	引手
④	ベルト
⑤	エビ金具
⑥	チェーン(オプション)

■ 操作手順及び注意事項

	操作手順	注意事項
開ける時	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハンドルロック①を押しながらシャッターハンドル②を矢印の方向（時計回り）に90度回転させロックを解除します。 2. 引手③をゆっくり持ち上げシャッター扉を開いて下さい。 3. アオリ付車のみ 左右のエビ金具⑤を解除し、アオリを静かに手前に倒して下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 指をはさまないように注意して下さい。 ● 必要以上に強く押し上げますとシャッター機構の破損につながります。 必ず全開して下さい。途中で止めて使用しますと扉の自重で下がりケガにつながる事があります。 ● 指をはさまないように注意して下さい。
閉める時	<ol style="list-style-type: none"> 1. アオリ付車のみ アオリを静かにおこし左右のエビ金具⑤で確実に固定して下さい。 2. 引手③又はベルト④を引きシャッター扉をゆっくり閉めて下さい。 3. シャッター扉が完全に閉まったことを確認し、シャッターハンドル②を反時計回りに回転させロックして下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 室内を必ず確認して下さい。 （人のいないことや荷物の異常等の無い事） ● 指をはさまないように注意して下さい。 ● 走行の際には必ずアオリを格納して下さい。 又、チェーン⑥（オプション）で水平にしたままの走行は厳禁です。 ● 確実にロックしたか確認して下さい。ロックが不十分ですと走行中に扉が開き人身事故等の重大事故につながる可能性があります。

※ワンタッチロック(オプション)装着車について

シャッターが閉まると自動的にロックされる構造になっています。
万一作業中倉庫内に閉じこめられた場合は内側より施錠を解除して下さい。（解錠方法はあらかじめ確認しておいてください）

■ 保守点検

1. 外装の損傷、取付ビス等の緩みがないか確認して下さい。
必要に応じて増し締めして下さい。
2. ゴムパッキンに損傷等がないか確認して下さい。
パッキンの損傷は気密性の低下や本体の損傷、荷物の損傷につながります。必要に応じて交換して下さい。
3. ベアリング等の回転部には定期的に給油して下さい。

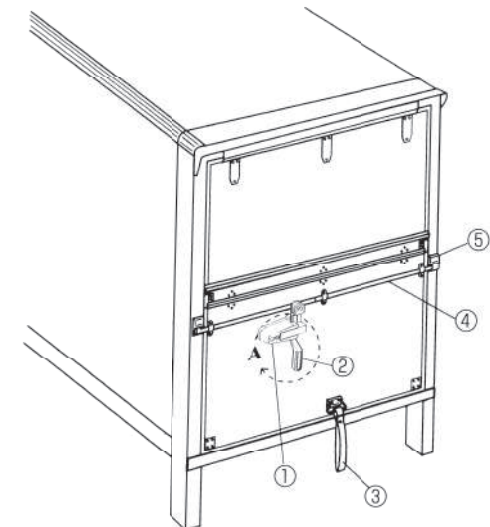
■ 消耗部品

- パッキン一式
- ベアリング
- ハンドルロックスプリング

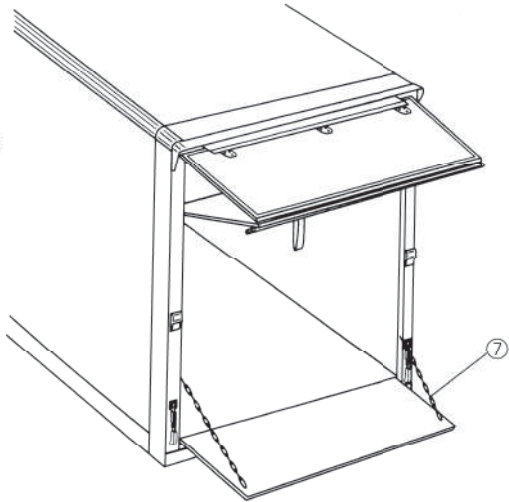
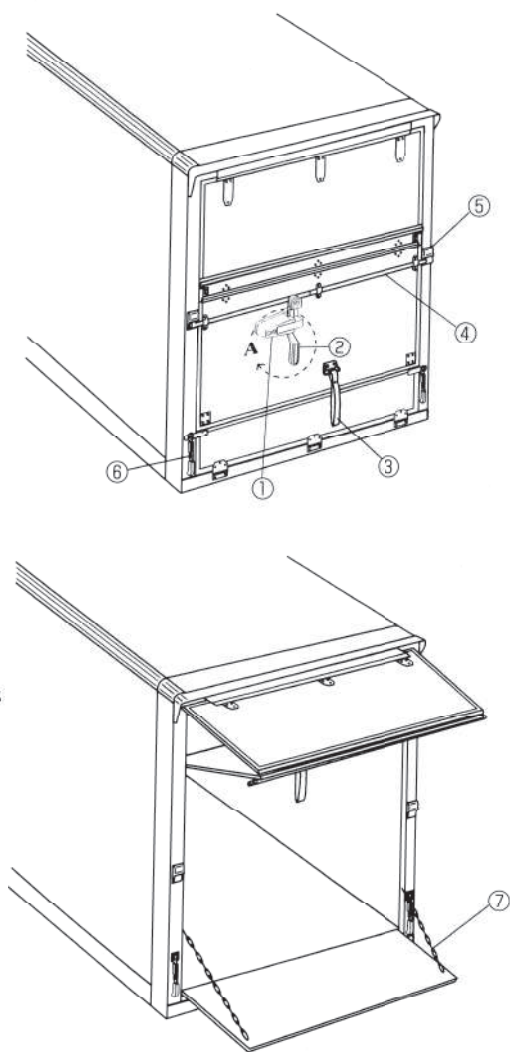
2-1 後 扉 フォールディングドア

■各部の名称

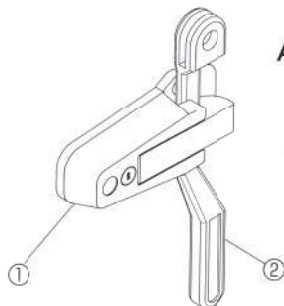
フォールディングドア



アオリ付
フォールディングドア

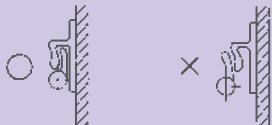


A部詳細



No.	名 称
①	ハンドルロック(ワンタッチロック)
②	ハンドル
③	ベルト(地上高により装着)
④	コネクターロックロッド
⑤	カムラッチ
⑥	エビ金具
⑦	チェーン(オプション)

■ 操作手順及び注意事項

	操作手順	注意事項
開ける時	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハンドルロック①のロック部分が手前に開く様押しハンドル②を手前側に引いて下さい。フォールディングドアのロックが解除されます。 2. 扉を上方へ持ち上げ完全に開いて下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 指をはさまない様に注意して下さい。 ● 後方に扉が開く十分なスペースが有る事を確認して下さい。 ● 扉の開閉は静かに行ってください。 ● ハンドル②は格納状態にして下さい。
閉める時	<ol style="list-style-type: none"> 1. アオリ付車のみ アオリを静かにおこし左右のエビ金具⑤で確実に固定して下さい。 2. 引手又はベルト③を引き扉をゆっくり閉めて下さい。 3. ハンドル②をハンドルロック①で確実にロックして下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 室内を必ず確認して下さい。(人のいないことや荷物の異常等の無い事) ● 指をはさまない様に注意して下さい。 ● 走行の際には必ずアオリを格納して下さい。又、チェーン⑦(オプション)で水平にしたままの走行は厳禁です。 ● コネクターロックロッド④の左右の爪がカムラッチ⑥に確実に入ったことを確認して下さい。 <p>下図のようにかからない状態で走行すると扉が開き重大な事故を引き起こす恐れがあります。</p> 

■ 保守点検

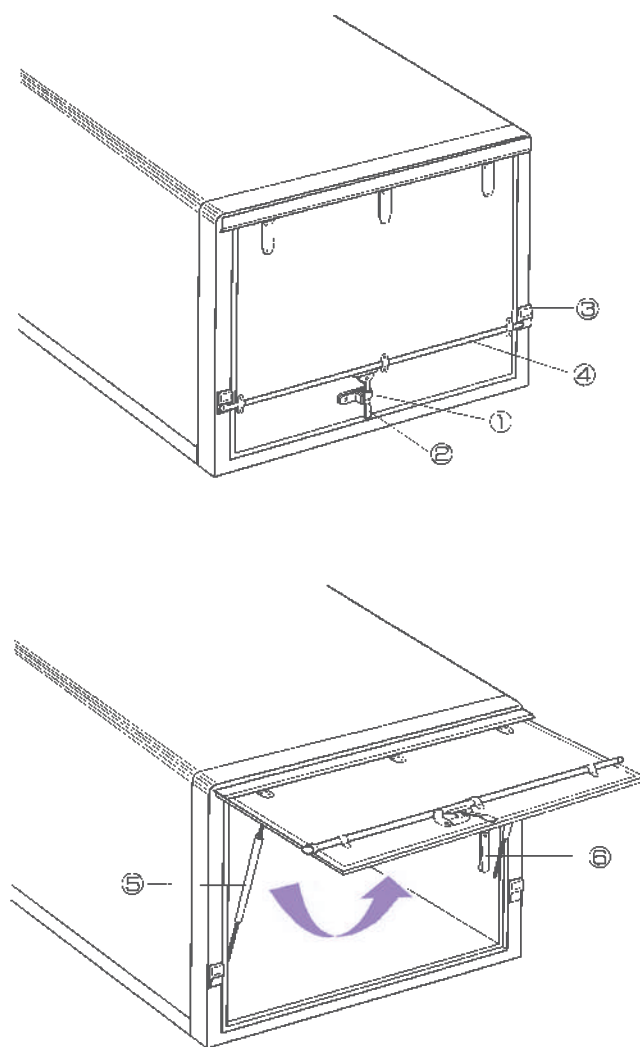
1. 外装の損傷・取付ビス等のゆるみがないか確認して下さい。必要に応じて増し締めして下さい。
2. ワイヤーの摩耗を確認して下さい。必要に応じて専門工場にてワイヤー交換をして下さい。
尚ワイヤーの定期交換は2年に1回行って下さい。
3. ゴムパッキンに損傷等がないか確認して下さい。パッキンの損傷は気密性の低下や本体の損傷、荷物の損傷につながります。必要に応じて交換して下さい。
4. 扉の動きがスムーズに開閉するか確認して下さい。
5. 門構下部左右の水抜き穴がつまらないように清掃して下さい。

■ 消耗部品

- 扉枠ゴム(Hゴム)
- ワイヤー
- ベアリング


2-1 後 扉 はね上げ扉

■各部の名称



No.	名 称
①	ハンドルロック
②	ハンドル
③	カムラッチ
④	コネクターロックロッド
⑤	ガススプリング
⑥	ベルト(地上高により装着)

■操作手順及び注意事項

	操作手順	注意事項
開ける時	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハンドルロック①を回し、ロックを解除する。 2. ハンドル②を水平まで回転させ手前側に引き寄せる。 3. 扉が開き始めたら下端を手で押さえながら水平まで開く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 後方に扉が開く十分なスペースがあることを確認して下さい。 ● 扉が開きはじめると途中よりはね上がる力が作用しますので必ず手を添えて静かに開いて下さい。
閉める時	<ol style="list-style-type: none"> 1. 扉の端部又はベルト⑥を手で引き下げる。 2. 片手でハンドル②をにぎり、ハンドルを水平に保ちながら、もう一方の手で閉めて下さい。 3. コネクターロックロッド④の爪がカムラッチ③に接触したら、ハンドル受け金具に固定する。 4. ハンドルロック①を回しロックして下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 室内を必ず確認して下さい。(人のいないことや荷物の異常等の無い事) ● 閉める時は、周囲に充分注意して下さい。 ● 扉を閉めるときは反力がかかっていますが途中より閉じる力が働きますので両手でしっかりと操作して下さい。 ● コネクターロックロッド④の左右の爪がカムラッチ③に確実に入ったことを確認して下さい。 <p>右図のようにかからない状態で走行すると、扉が開き重大な事故を引き起こす恐れがあります。</p> 

※車から離れる際は必ず扉を閉めてください。開けたままでは、後方からの追突等で危険です。

■保守点検

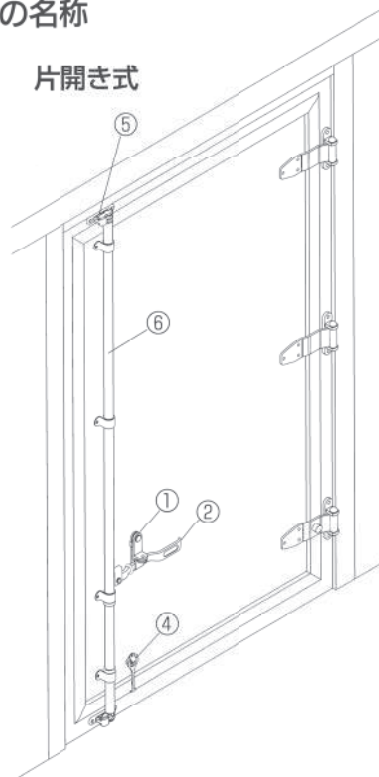
1. 外装の損傷・取付ビス等のゆるみが無いか確認して下さい。必要に応じて増し締めして下さい。
2. ゴムパッキンに損傷等が無いか確認して下さい。パッキンの損傷は気密性の低下や本体の損傷、荷物の損傷につながります。必要に応じて交換して下さい。
3. ガススプリングの損傷、ガスもれ等を確認して下さい。必要に応じてガススプリングの交換をして下さい。
4. 扉の動きがスムーズに開閉するか確認して下さい。

■消耗部品

- 扉枠ゴム(Hゴム)
- ガススプリング

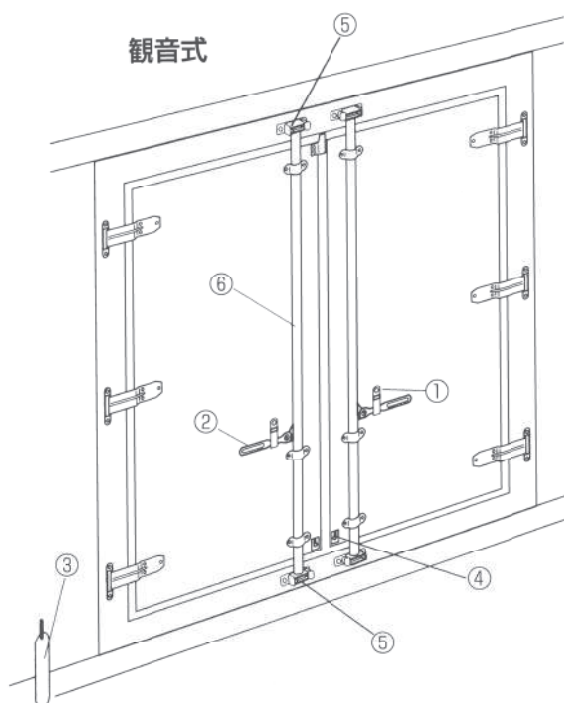
2-2 側 扉 片開き式・観音式

■各部の名称



片開き式



No.	名 称
①	ハンドルロック
②	ハンドル
③	開き止め受金具
④	開き止め金具
⑤	カムラッチ
⑥	コネクターロックロッド



観音式

No.	名 称
①	ハンドルロック
②	ハンドル
③	開き止め受金具
④	開き止め金具
⑤	カムラッチ
⑥	コネクターロックロッド

操作手順及び注意事項

		操作手順	注意事項
片開き式	開ける時	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハンドルロック①を解除する。 2. ハンドル②を持ち上げ手前側に引き扉を少し開ける。 3. ハンドル②をハンドルロック①に戻して扉を回転させ開き止め金具③④で扉を固定させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 強風時の開閉は風にあおられないように注意して下さい。 ● ハンドル②をハンドルロック①に戻さないでと外板を損傷する恐れがあります。 ● 開き止め金具③④は確実に固定されている事を確認して下さい。
	閉める時	<ol style="list-style-type: none"> 1. 扉開き止め金具③④を外し扉を回転させる。 2. コネクターロックロッド⑥の爪をカムラッチ⑤に固定させる。 3. ハンドル②を回しハンドルロック①を掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 室内を必ず確認して下さい。(人のいないことや荷物の異常等の無い事) ● コネクターロックロッド⑥の上下の爪がカムラッチ⑤に確実に入ったことを確認して下さい。 <p>右図の様にかからない状態で走行すると、扉が開き重大な事故を引き起こす恐れがあります。</p> 
観音式	開ける時	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハンドルロック①を解除する。 2. ハンドル②を持ち上げ手前側に引き扉を少し開ける。 3. ハンドル②をハンドルロック①に戻して扉を回転させ開き止め金具③④で扉を固定させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 強風時の開閉は風にあおられないように注意して下さい。 ● ハンドル②をハンドルロック①に戻さないでと外板を損傷する恐れがあります。 ● 開き止め金具③④は確実に固定されている事を確認して下さい。
	閉める時	<ol style="list-style-type: none"> 1. 扉開き止め金具③④を外し扉を回転させる。 2. コネクターロックロッド⑥の爪をカムラッチ⑤に固定させる。 3. ハンドル②を回しハンドルロック①を掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 室内を必ず確認して下さい。(人のいないことや荷物の異常等の無い事) ● コネクターロックロッド⑥の上下の爪がカムラッチ⑤に確実に入ったことを確認して下さい。 <p>右図の様にかからない状態で走行すると、扉が開き重大な事故を引き起こす恐れがあります。</p> 

保守点検

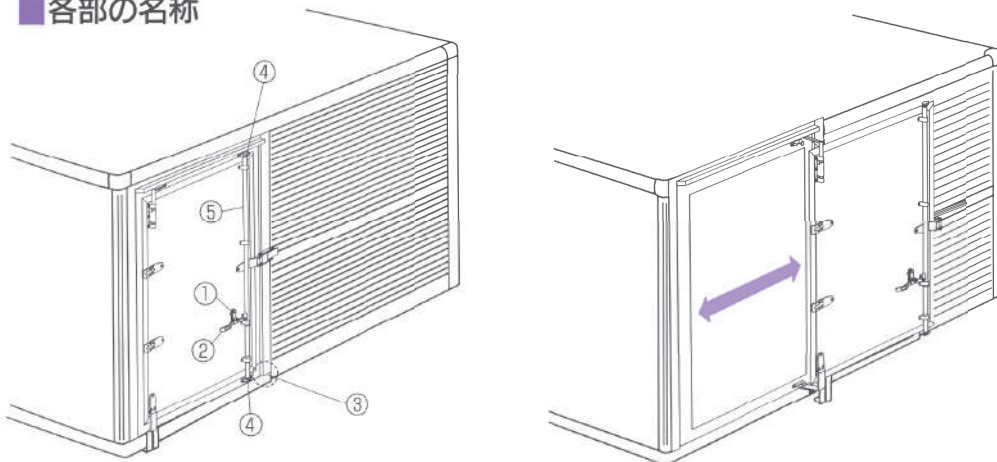
1. 外装の損傷・取付ビス等のゆるみが無いか確認して下さい。必要に応じて増し締めして下さい。
2. ゴムパッキンに損傷等が無いか確認して下さい。パッキンの損傷は気密性の低下や本体の損傷、荷物の損傷につながります。必要に応じて交換して下さい。
3. 扉の動きがスムーズに開閉するか確認して下さい。

消耗部品

- 扉枠ゴム(Hゴム)

2-2 側 扉 アウトスライドドア

各部の名称



No.	名 称
①	ハンドルロック
②	ハンドル
③	もどり止め
④	カムラッチ
⑤	コネクターロックロッド

操作手順及び注意事項

	操作手順	注意事項
開ける時	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハンドルロック①を解除する。 2. ハンドル②を持ち上げ手前側に引きドアを少し開ける。 3. ドアを後方にスライドさせ、もどり止め③に固定して下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 指をはさまない様に注意して下さい。 ● 必要以上に強く開けるとスライド機構を損傷する恐れがあります。
閉める時	<ol style="list-style-type: none"> 1. ドア本体を前方にスライドさせて下さい。 2. ドアを押し込みながらコネクターロックロッド⑤の爪をカムラッチ④に固定させる。 3. ハンドルロック①を掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 室内を必ず確認して下さい。(人のいないことや荷物の異常等の無い事) ● 指をはさまない様に注意して下さい。 <p>コネクターロックロッド⑤の上下の爪がカムラッチ④に確実に入ったことを確認して下さい。</p> <p>右図の様にかからない状態で走行すると、扉が開き重大な事故を引き起こす恐れがあります。</p>

保守点検

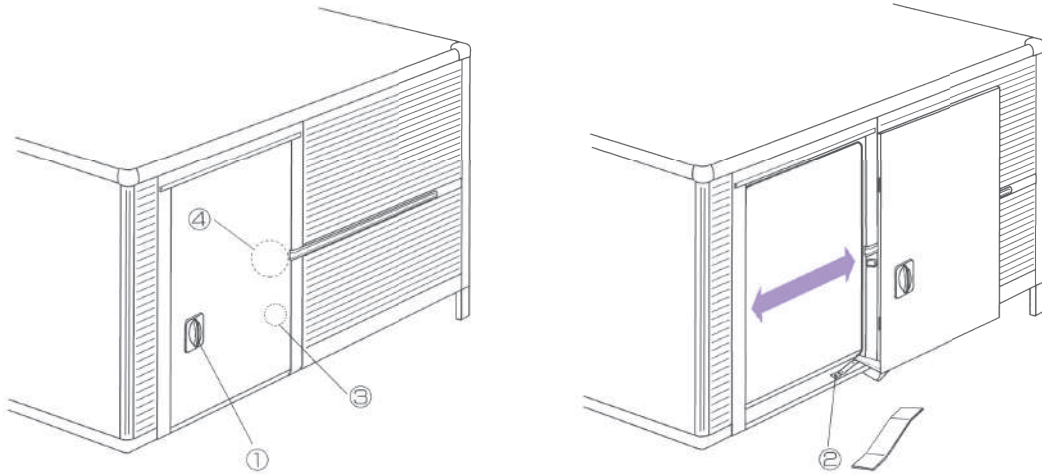
1. 外装の損傷、取付ビス等のゆるみがないか確認して下さい。必要に応じて増し締めして下さい。
2. ゴムパッキンに損傷等がないか確認して下さい。パッキンの損傷は気密性の低下や本体の損傷、荷物の損傷につながります。必要に応じて交換して下さい。
3. ベアリング等の回転部には定期的に給油して下さい。
4. ドアの動きがスムーズにスライドするか確認して下さい。

消耗部品

- 扉枠ゴム (Hゴム)
- ベアリング
- ドアストッパーゴム

2-2 側 扉 ワンタッチスライドドア

■各部の名称



No.	名 称
①	ハンドル
②	もどり止めスプリング
③	ロックストライカー
④	センターローラーベアリング

■操作手順及び注意事項

	操作手順	注意事項
開ける時	<ol style="list-style-type: none"> ハンドル①を手前側に引いて下さい。 ドアを後方にスライドさせもどり止めスプリング②に固定して下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> 指をはさまない様に注意して下さい。 必要以上に強く開けるとスライド機構を損傷する恐れがあります。
閉める時	<ol style="list-style-type: none"> ドア本体を前方にスライドさせて下さい。自動的にロックされます。 	<ul style="list-style-type: none"> 室内を必ず確認して下さい。(人のいないことや荷物の異常等の無い事) 指をはさまない様に注意して下さい。 ドアが半開き状態で無いことを確認して下さい。

※万ーロックされたとき

作業中等庫内に閉じこめられた場合は内側より施錠を解除して下さい。

■保守点検

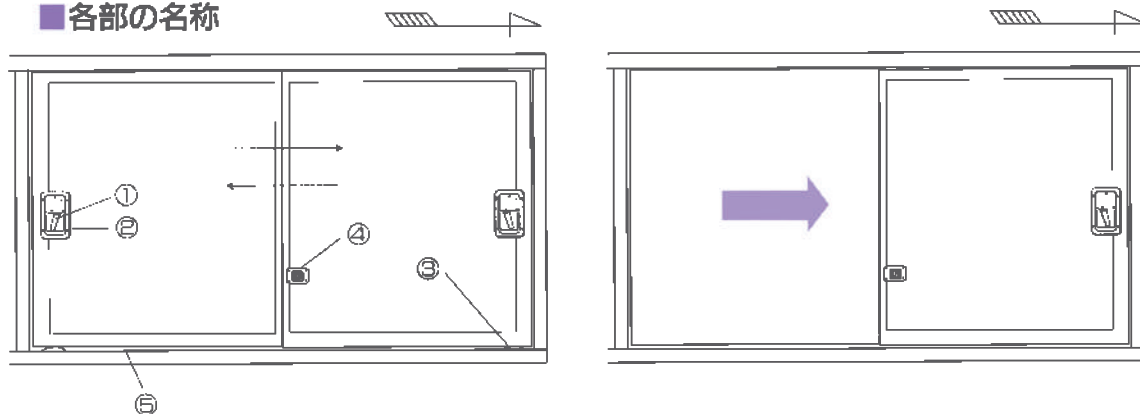
1. 外装の損傷、取付ビス等のゆるみがないか確認して下さい。必要に応じて増し締めして下さい。
2. ゴムパッキンに損傷等がないか確認して下さい。パッキンの損傷は気密性の低下や本体の損傷、荷物の損傷につながります。必要に応じて交換して下さい。
3. ベアリング等の回転部には定期的に給油して下さい。
4. ドアの動きがスムーズにスライドするか確認して下さい。

■消耗部品

- パッキン一式
- ベアリング
- もどり止めスプリング

2-2 側 扉 引違い扉

■各部の名称

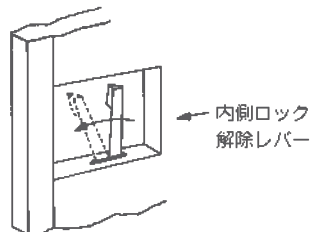


No.	名 称
①	ハンドルレバー
②	ハンドル台
③	もどり止めスプリング
④	施錠(オプション)
⑤	引戸下レール

■操作手順及び注意事項

	操作手順	注意事項
開ける時	<ol style="list-style-type: none"> ハンドルレバー①を引いてロックを解除し扉をスライドさせて下さい。 扉は必ず全開し、扉を戻り止めスプリング③に固定して下さい。 (扉構成により、固定は落とし錠などの場合もあります) 	<ul style="list-style-type: none"> ●必要以上に強く開けると扉を損傷する恐れがあります。 ●路面の傾斜等、ボデーの姿勢の変化で自然に扉が閉まることがあります。
閉める時	<ol style="list-style-type: none"> ハンドル台②に手をかけて扉を閉めて下さい。自動的にロックされます。 閉めた後はハンドル台②に手を掛けて扉を逆方向に引いて開かない事(ロックされている事)を確認して下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●室内を必ず確認して下さい。(人のいないことや荷物の異常等の無い事) ●指をはさまないように注意して下さい。 ●閉まるまで必ずハンドル台に手を添えて無理のない力で閉めて下さい。(力まかせに閉めますと各部を損傷する恐れがあります。) ●下レール⑤部には、ゴミ又は異物が無い様注意して下さい。扉を破損する原因となります。

※万一ロックされたとき作業中等庫内に閉じこめられた場合は内側より施錠を解除して下さい。



■保守点検

- 外装の損傷・取付ビス等のゆるみが無いが確認して下さい。必要に応じて増し締めして下さい。
- ゴムパッキンに損傷等がないか確認して下さい。パッキンの損傷は気密性の低下や本体の損傷、荷物の損傷につながります。必要に応じて交換して下さい。
- 扉の動きがスムーズにスライドするか確認して下さい。

■消耗部品

- パッキン一式
- ベアリング
- もどり止めスプリング

3.バンボデーの保守点検

バンボデー車を安全にお使いいただくため下記項目の定期点検をお願いします。

項目	確認内容
下回り関係	<ul style="list-style-type: none">●ボルトの弛みや締付け周辺の異常がないか●溶接部の亀裂がないか●Uボルトがずれたり、ナットが弛んでいないか●スペーサーのずれや亀裂の発生箇所がないか●サイドバンパー・リヤバンパーに亀裂や変形がないか●フェンダーや泥除けにガタはないか
ボデー関係	<ul style="list-style-type: none">●横根太に変形や亀裂がないか●ボルトやビスが抜け落ちてたり、弛んでいないか●リベットに弛みはないか●シール剤の亀裂や剝離がないか●パネルに損傷はないか
ドア関係	<ul style="list-style-type: none">●パッキンに損傷がないか●ドア金具にガタはないか、開閉はスムーズか
内装関係	<ul style="list-style-type: none">●床材に割れや損傷はないか●床上張りに亀裂や損傷がないか●内張りの割れやビス等の弛みはないか●シール材の亀裂や剝離はないか
電気関係	<ul style="list-style-type: none">●灯具は正常に点灯するか●警報ブザー等は正常か

4. その他の注意事項

1. ドライバン

- ①積荷は水分が流れ出ないように充分注意をして下さい。
- ②庫内の清掃は水洗い厳禁です。(床板・内装に悪影響をあたえます)
- ③炎天下において密閉された庫内は駐車時に思わぬ温度上昇をまねきます。作業、積荷等注意して下さい。

2. 保冷・冷蔵・冷凍車

- ①庫内の清掃において防水処理を施してある箇所についてはシール材がはがれない様注意して下さい。
- ②床面は水や油汚れによりすべりやすく危険です。作業時等注意して下さい。

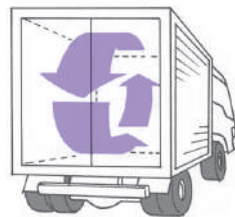
③積荷はあらかじめ冷却してから

保冷、冷蔵冷凍車は積荷の品温を保持するものです。積荷はあらかじめ他の冷却装置で所定の温度まで冷やして積み込んで下さい。
(温かいもの、熱いものを積んで冷却するという使い方はさけて下さい)



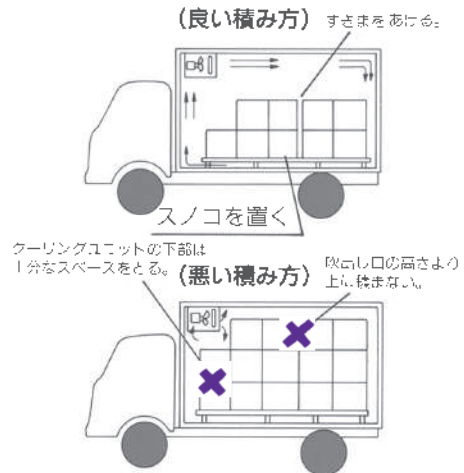
④積み込む前に庫内の予冷を

庫内温度が高いまま荷物を積み込みますと荷物の温度が上昇します。
庫内を十分に冷やしてから荷物を積み込んで下さい。



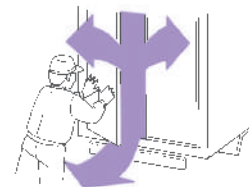
⑥正しい積み方を(冷蔵・冷凍車)

冷気がスムーズに循環するようにすき間を充分開けて下さい。
特に冷気の吹き出口を積荷で塞ぐことは禁物です。



⑥ドアの開閉は素早く

ドアを開くと瞬間的に庫内温度が上昇します。
ドアの開閉は素早く行い少しでも冷気が逃げないようにして下さい。



⑦駐停車は日陰で

駐停車中の直射日光は庫内温度上昇原因になります。
市中電源駆動装置運転時や、保管場所、食事時などの駐車、荷物の積み込み、積み降ろし作業などもできるだけ日陰で風通しの良い場所を選んで下さい。



⑧庫内はいつもきれいに

庫内はいつもきれいに清掃をして下さい。
週に一度は扉を開けて通気、乾燥に心がけて下さい。

冷凍機の取扱いについては各メーカーの取扱い説明書を必読下さい

5.違法改造の禁止

お届けした車両は保安基準に適合した改造届出車です。車検証に記載されている内容を御確認下さい。車検後の改造は、法律で禁止されており重大な事故につながる恐れがありますので絶対に行わないで下さい。

①灯具の増設等

②届出なしの2次改造→例えば燃料タンク、導風板
パワーゲート…等、車検後の架装

③ボデーの改造等→不適切な工事は、強度・性能に悪影響を及ぼします。

※但し、構造変更、再車検にて、架装可能となる内容もありますので、最寄りの専門メーカーに御相談下さい。

6.電装品関係

6-1 不良原因と対策

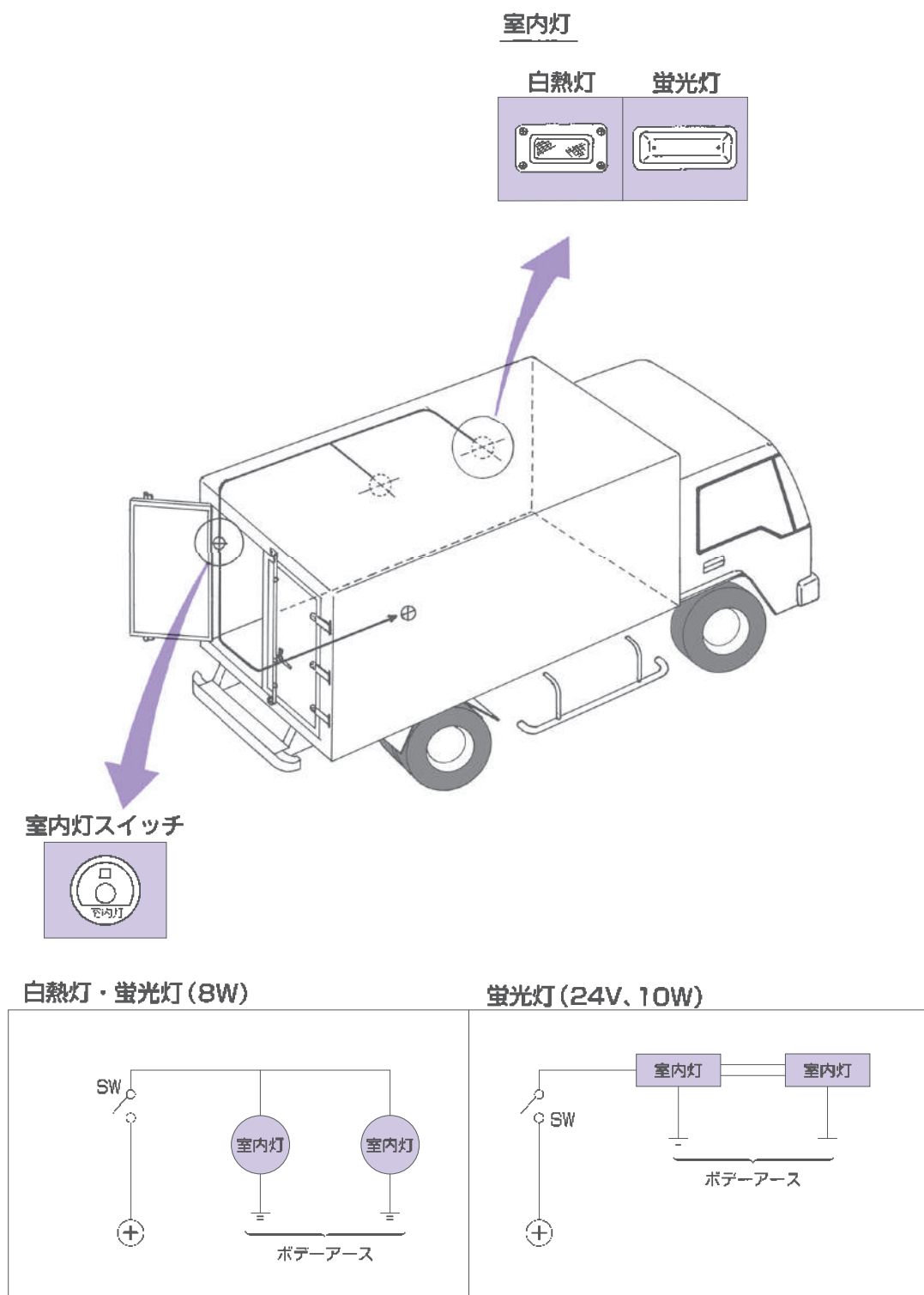
電装品には種々ありますが
以下に標準的な電装品の不良原因と対策を示します。

■原因と対策

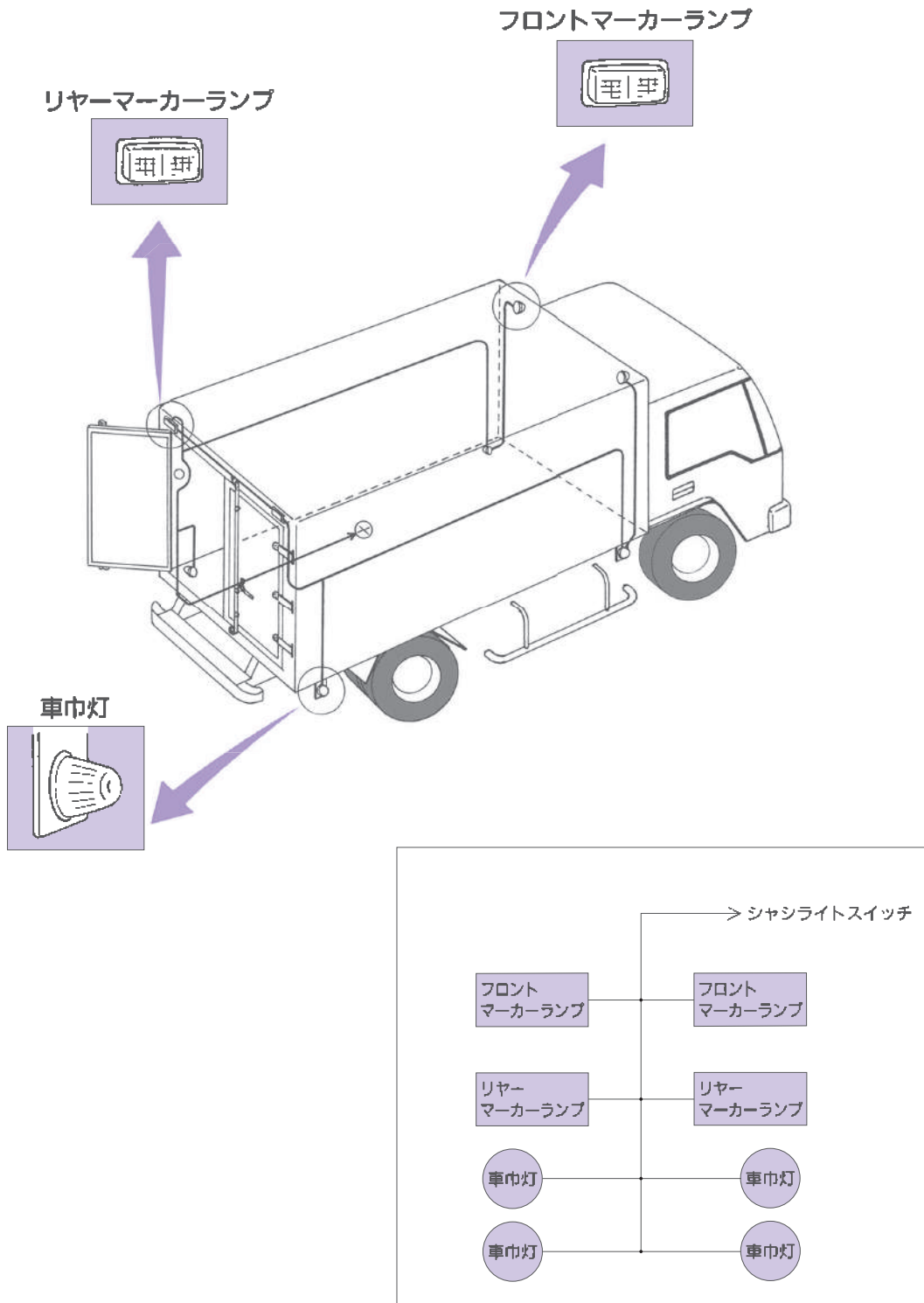
No.	原因	対策
1	球切れ	●電球又は蛍光灯を交換して下さい。 (注12Vと24Vをまちがえないで下さい。)
2	ヒューズ	●ヒューズが切れていないかチェックして下さい。 (路肩灯にはシャシーのヒューズの他に専用のヒューズが付いています。)
3	断線	●テスターにてチェックして下さい。 ●断線部の配線を交換して下さい。
4	灯具不良	●灯具部で電圧測定をして下さい。 ●電圧が正常な場合、灯具全体の不良が考えられます。灯具を交換して下さい。

※不明な点がありましたら当社へ連絡願います。

6-2 室内灯配線図



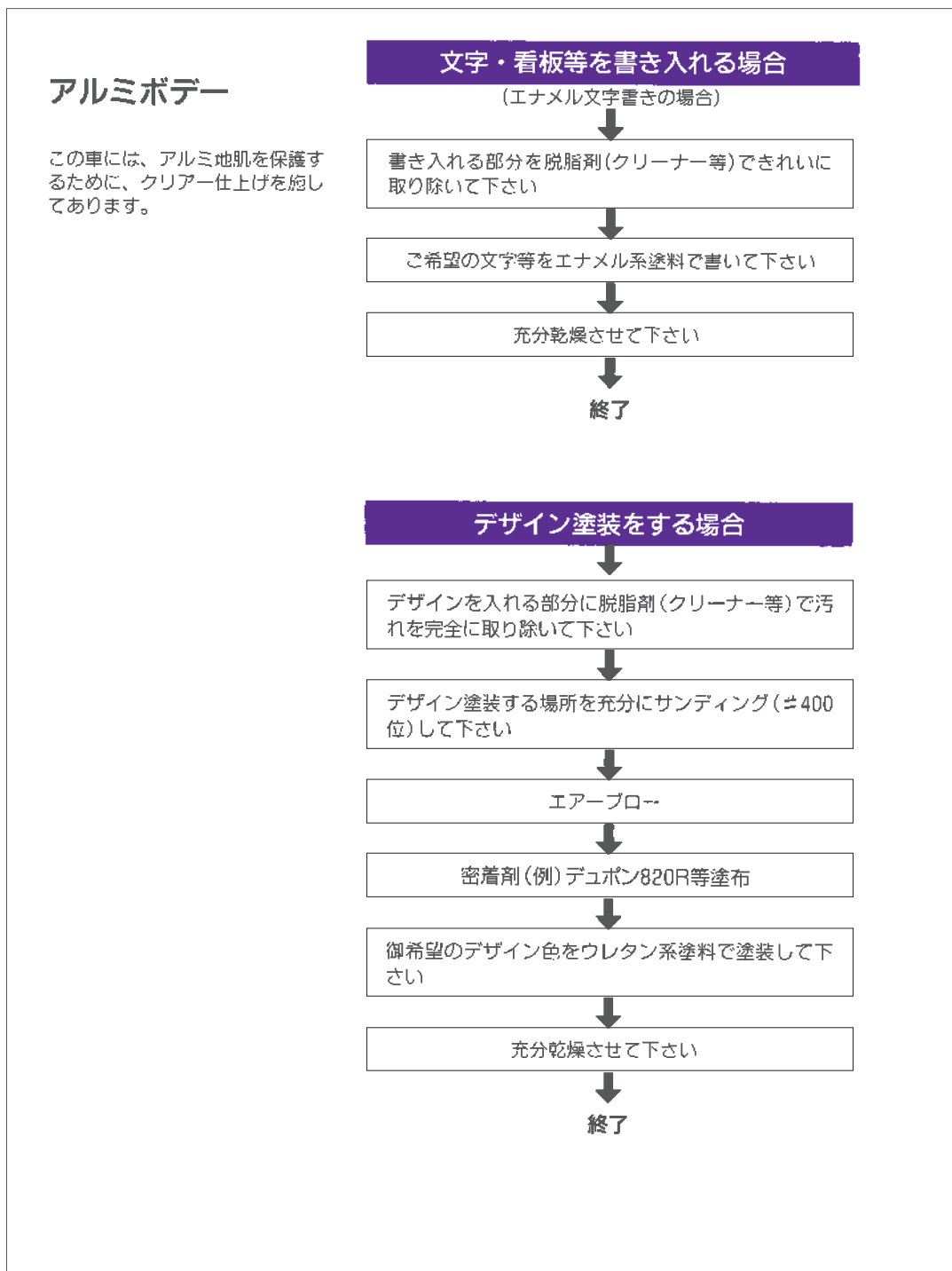
6-3 マーカーランプ及び車巾灯配線図



(参考図) 本図はアルミバンを示す。仕様によって異なることがあります。

7. 文字・看板・デザイン塗装について

【注意】 ラッカー系で文字・看板を書いたり、クリアーの上にラッカー塗料にて塗装しますと、後日剝離する場合がありますのでご注意願います。



カラーアルミボデー

この車には、アルミ地肌を保護するために焼付け塗装がしてあります。

デザイン及び文字看板を書き入れる場合

記入する部分の汚れを脱脂剤(クリーナー等)で完全に
取り除いて下さい

デザイン塗装の場合

文字・看板の場合

塗装する場所をサンディ
ング(#400位)して下さい

ご希望のデザイン又は文字等をウレタン系塗料で記入
して下さい

充分乾燥させて下さい

終了

[注意]上記以外の塗料で記入しますと密着性が悪く、
後日剝離する場合がありますよりから御注意下さい。

FRPボデー

この車には白色塗装を施してあり
ます。

デザイン及び文字看板を書き入れる場合

記入する部分の汚れを脱脂剤(クリーナー等)で完全に
取り除いて下さい

デザイン塗装の場合

文字・看板の場合

ウレタン系塗料にて塗
装願います

エナメル系、ウレタ
ン系塗料にて書いて
下さい

充分乾燥させて下さい

終了

8.バンボデーサービス基準

本基準の基本的な品質保証期間は「新車登録日から1年間又は2万km」を原則とし、サービス期間を下表の通り定める。

	項 目	主な確認内容(参考)	サービス 期間(月)
① シャシ 締結関係	(1)締付部品の亀裂、変形	●締付け部品の弛みや締め付け周辺の塗装割れがないか	24
	(2)溶接部の亀裂、変形	●溶接部の亀裂に結び付く錆やノッチ等がないか	24
	(3)縦根太の亀裂、変形	●挫屈や疲労破壊で塗装割れや歪の発生がないか ●Uボルトがずれたり、ボルトが弛んでいないか	24
	(4)スペーサーの割れ	●リベット逃げ穴や板端などの周辺に亀裂がないか ●スペーサーのずれや亀裂の発生箇所がないか	24
② ボデー 構造組立関係	(1)縦根太の亀裂、変形	●各部に変形がないか、また溶接部に欠陥がないか	24
	(2)横根太連結材の亀裂	●溶接部に亀裂がないか	24
	(3)ボルトのゆるみ	●ボルトが抜け落ちていたり、弛んでいないか	12
	(4)リベットのゆるみ	●サイズやピッチなどが適正寸法か、また各部材との圧着状態が完全に隙間等の発生がないか	24
	(5)シール性能にかかわる雨漏れ	●シール剤塗布が充分で亀裂や剥離又は経年変化していないか及び他の影響を受けていないか	24
	(6)枠材の亀裂、変形	●部材の変形や他の補強方法との関係は適正か	24
	(7)パネルの亀裂、変形	●枠材や補強部材等で悪影響を受けていないか	24
③ ドア関係	(1)ドアパネルの膨潤、剥離	●水浸入の形跡がないか、水抜き対策は充分か ●シール剤塗布が充分で経年変化に至っていないか	12
	(2)シールラバーの劣化	●耐候性等温度変化による影響で亀裂等はないか ●接着剤やシーリング剤等による悪影響はないか	12
	(3)ドア金具の不具合	●使用目的にあった金具で、ドア重量や大きさに見合う部材とスムーズさを保持しているか	12
④ 内装関係	(1)床材の割れ	●合板等の自然亀裂がないか	12
	(2)床材の浮き	●水浸入跡や根太等の変形がないか	12
	(3)床上張りの亀裂	●床上張りの根太止め結合部の弛みがないか	12
	(4)床上張りの浮き	●溶接部が振動や高温等の影響を受けていないか	12
	(5)内張材の割れ	●板端に対するビス取付位置や未接着部等の確認	12
	(6)内張材の浮き	●ビス間隔や各部材との接着が充分で適正か	12
	(7)シール劣化等による断熱材の性能低下や接着工法等の不備	●シール亀裂や剥離又は他の影響を受けてないか ●接着剤塗布時に防錆処理等他の悪影響がないか	12
	(8)リベット、ビスの切損	●サイズやピッチが適正で振動等の影響はないか	12

	項 目	主な確認内容(参考)	サービス 期間(月)
⑤ 電気配線関係	(1)配線の不具合	●泥の付着やクランプはずれ等により、各部隙間の適正寸法が確保されているか	12
	(2)室内灯	●冷凍運転中でも点灯し、ケース等のひび割れ等で漏電等の悪影響を及ぼしていないか	12
	(3)スイッチ	●作動が滑らかか	12
	(4)警報ブザー	●音量は適正か、他回路や低温時の影響がないか	12
⑥ 冷凍機関係	(1)冷凍機本体機能	●冷凍機メーカーの保証性能や各部の弛みがないか	メ カ 保 証
	(2)ボルトの切損	●車体や機器の振動による共振がないか又サイズや本数、材質は適正で締付けトルクが充分か	12
	(3)取付ブラケットの変形	●本体振動や車面振動等に対して取り付けボルトのサイズや本数、締付トルク等は適正か	12
⑦ 機装品関係	(1)ボルトの切損	●ボルトの弛み(特に初期弛み)や脱落がないか	12
	(2)サイドガードの亀裂	●車体振動による疲労破壊等塗装割れがないか	12
	(3)工具箱	●取付け部の弛みや全体の変形又は発錆がないか	12
	(4)フェンダー及び泥よけ	●全体の変形や発錆がないか、各部隙間は適正か	12
	(5)スペアタイヤキャリア	●取付部の弛みや全体の変形又は発錆がないか	メ カ 保 証
⑧ 塗装関係	(1)キャブ塗装の不具合	●塗装のむらやピンホール等の穴や傷がないか風害等による砂傷や大気汚染の影響がないか	12
	(2)ボデースチール部材の錆	●同上及び閉断面構造部が充分塗装されているか	12
	(3)ボデー塗装の剥離	●部位により塗装の種類、塗料、焼付け等適正か	12

〈本基準の適用除外項目〉

- (1)車両の事故、過失又は過酷な使用(過積載等)に起因するもの
- (2)日常の保守、点検整備等、メンテナンスの不備に起因するもの
- (3)一般常識外走行等使用環境が著しく悪く、これに起因するもの
- (4)ボデーやシャシメーカーにかかわりのない改造等に起因するもの
- (5)地震、台風、水害、火災等主に天災による災害に起因するもの

9.バンボデーのお手入れ

■ボデー外板の手入れ

水に浸した柔らかい布かセーム皮で水洗いをします。

汚れが落ちないときは、中性洗剤を使用してください。外板に、はん点が残らないように水分をふきとってください。

■ボデー内の手入れ

ほうき等で清掃をしてください。床が木材の場合、水洗いはしないでください。床板がそり上がるおそれがあります。

■日常点検

●後扉及び側扉

扉を操作し、確実に開閉してロックするか点検してください。

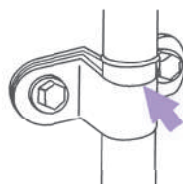
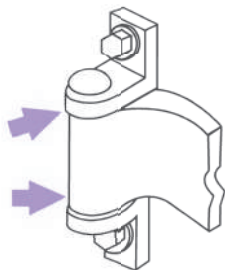
■給油脂

下記の→部位にグリース又は潤滑剤を1ヶ月毎に塗布してください。

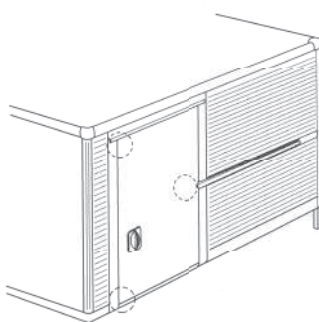
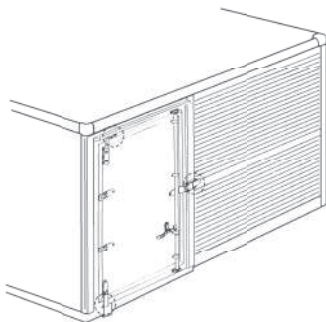
●後扉(観音扉)及び側扉(片開き式扉・観音式扉)

丁番回転部分

ブラケットロックロット部分



●側扉…アウトスライドドア、ワンタッチスライドドアのベアリング部。



10.本社・営業所

本 社 工 場 〒950-0322 新潟市江南区両川1丁目3604番地12

支店・営業所

東 京 支 店 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2丁目3番13号M&Cビル6F
☎(03) 3518-8889 FAX(03) 5281-1020

大 阪 営 業 所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島6丁目7番3号第六新大阪ビル3F
☎(06) 6305-7174 FAX(03) 6305-1340

名古屋営業所 〒464-0848 名古屋市千種区春岡1丁目1番2号YAMAMAN仲田ビル401号
☎(052) 753-6351 FAX(052) 753-6381

仙 台 営 業 所 〒981-3133 仙台市泉区泉中央2丁目23-17
☎(022) 771-7321 FAX(022) 771-7320

新 潟 営 業 所 〒950-0322 新潟市江南区両川1丁目3604番地12
☎(025) 280-7111 FAX(025) 280-7110

金 沢 営 業 所 〒921-8142 石川県金沢市光が丘1丁目112番地
☎(076) 298-3375 FAX(076) 298-3450

バン・リフトの部品に関するお問い合わせ

部品サービス課 ☎(025) 280-7114 FAX(025) 280-7141

インターネットホームページ <http://www.kitamurass.co.jp/>

初版発行 1995年6月
15版発行 2017年11月

複製を禁ず

発行：株式会社 北村製作所 販売促進室

制作： 同 上

新潟県新潟市江南区両川1丁目3604-12

